

交流及び共同学習の場面で、児童が
意欲的に参加するために
―「交流ノート」を活用して―

1

本実践に関連する児童生徒の実態

対象 小学生

- 課題
 - ・自分で「30人以上の集団は無理」などのルールをつくり、自分の行動を制限するというこだわりがある。また、集団に入ることには抵抗があり、交流学級のグループ活動に意欲的に行動することができない。
- 強み
 - ・社会科や理科の知識が豊富である。
 - ・写真を見るのが好きである。
 - ・特別支援学級で、友達と話をすることが好きである。

2

指導目標・指導仮説

教科等及び単元（題材）名
交流及び共同学習、自立活動

目標（本実践終了時の期待する子供の姿）
交流学級で、友達と話し合ったり、全体で発表したりするなど、自然な形で交流できる。

指導仮説
交流学級の友達との関わりを写真と文章で記録した「交流ノート」を作成し、自立活動の時間に振り返らせることで、意欲的に交流学級の友達と関わり合うことができるであろう。



児童の実態

3

指導仮説の具体的な内容と評価内容・方法

◆指導仮説の具体的な内容

- ・指導者が、交流学級の友達との関わりを写真と文章で記録した「交流ノート」を作成する（見える化）。
- ・自立活動の時間に、「交流ノート」を活用して、担任や友達と振り返り、自己肯定感を高めるような声かけを行い、次への意欲につなげる。

◆評価方法（どのような方法で何を評価するか）

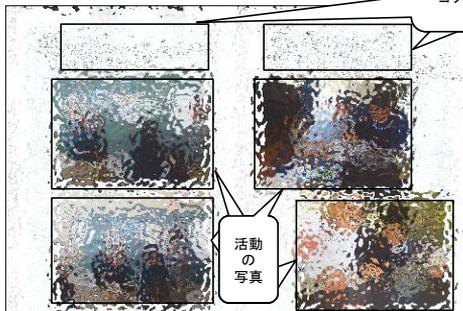
行動観察 児童の行動や発言が、意欲的であるか。
交流ノート 写真の中に、意欲的な姿が見られたか。

4

指導の実際①

交流ノート

指導者のコメント



5

指導の実際②

自立活動 授業の流れ

交流ノートを活用して交流及び共同学習を振り返る

自分がかんばっている姿の写真を選ぶ **自己決定**

自分の交流での姿を客観的に認知する **見える化**

全体で発表する

みんなの写真を見て友達の
良いところを見つける

全体で発表する

6

指導の実際③

自立活動の実際

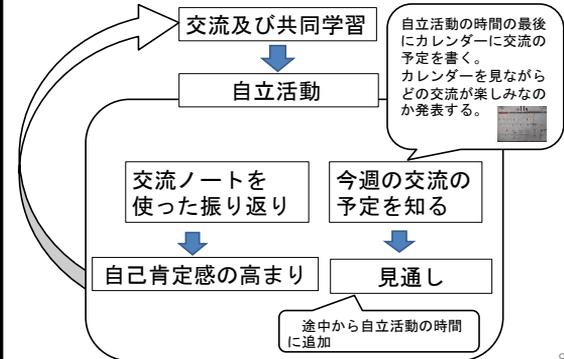
T(教師)「自分が頑張ったことを発表しましょう」
 生徒A「理科の実験をみんなの代表でしました」
 T「友達のがんばっていることを見つけましょう」
 生徒B「みんなが感心してすごいと思いました」
 生徒C「この実験は難しかったのにすごい」
 T「自信を持ってがんばっていますね」



肯定的な言葉がけ (よい言葉のシャワー)

自己肯定感の高まり

指導の実際④



実践前後での児童の変容

実践前	実践後
<ul style="list-style-type: none"> なかなか交流学級に入ることができず、入っても後ろの席に座り、友達と関わりをもつことがなかった。 休憩時間は、外に出ないで教室で本を読んだりパズルをしたりして過ごすことが多かった。 自己中心的な行動があり、トラブルになることがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流及び共同学習に意欲的に参加するようになった。友達と協力し合う、人前で発表する、異学年に関わるなどの姿が増えた。 休憩時間は、友達と一緒に遊ぶことが増えた。 周りを見ながら行動することが増え、トラブルが減った。

評価

- 児童は目標を達成したか。
 - ・概ね達成した。
- 判断の理由・根拠
 - ・理科の学習において、グループの中で意欲的に実験をしている姿や集会でみんなの前で堂々と発言をしている姿が見られ、意欲的な活動の写真も増えた。
 - ・自立活動で「交流ノート」を見ながらの振り返り時に、他児や自分の行動に対して、肯定的な発言が増えた。

指導仮説の検証

- 指導の成果
 - ・「交流ノート」は、自分自身の姿を客観的に見ることができ、自身を振り返るのに非常に有効であった。
 - ・学級で振り返りを行い、児童同士に肯定的な発言をさせることを通して、対象児童の自己肯定感を高めることができた。その結果、前向きな発言や行動が増えるとともに、トラブルが減った。
- 課題
 - ・交流ノートを学級の児童と一緒に作成していけば、自分の交流ノートという意識が高まり、より意欲的に交流できた。

指導の改善案

- 成果・課題を踏まえた改善案
 - ・交流学級の学習への児童の意識をより高めるために、児童と一緒に交流ノートを作成したり、児童のがんばりを数値化し、目標を明確にする。
 - ・児童への取組を焦点化するために一人一人の交流ノートを作成し、振り返りを年間を通して自立活動に位置づけて取り組む。